

1. 調査結果概要書

作成日 平成20年1月21日

【評価実施概要】

事業所番号	2771200538
法人名	有限会社 シルバーケア
事業所名	グループホーム 春日苑 田尻
所在地	大阪府泉南郡田尻町大字吉見384番地 (電話) 072-465-2011

評価機関名	特定非営利活動法人 評価機関あんしん		
所在地	岸和田市三田町1797		
訪問調査日	平成19年12月26日	評価確定日	平成20年1月21日

【情報提供票より】(平成19年11月30日事業所記入)

(1) 組織概要

開設年月日	平成17年3月1日		
ユニット数	2 ユニット	利用定員数計	18 人
職員数	19 人	常勤15人, 非常勤4人, 常勤換算14.4人	

(2) 建物概要

建物構造	鉄骨	造り
	1階建ての	1階部分

(3) 利用料金等(介護保険自己負担分を除く)

家賃(平均月額)	45,000 円	その他の経費(月額)	20,000 円	
敷金	無			
保証金の有無 (入居一時金含む)	無	有りの場合 償却の有無	有 / 無	
食材料費	朝食	300 円	昼食	400 円
	夕食	500 円	おやつ	100 円
	または1日当たり		円	

(4) 利用者の概要(11月30日現在)

利用者人数	18名	男性	4名	女性	14名	
要介護1	4名	要介護2	9名			
要介護3	2名	要介護4	2名			
要介護5	1名	要支援2				
年齢	平均	83歳	最低	71歳	最高	97歳

(5) 協力医療機関

協力医療機関名	イッセイ内科クリニック・浜西歯科医院・泉南西出病院
---------	---------------------------

【外部評価で確認されたこの事業所の特徴】

グループホーム春日苑田尻は、南海本線吉見ノ里駅から徒歩5分の所にあり、周辺は、のどかな景色が広がり、敷地も広々としていて、駐車スペースもゆったりとある。建物は平屋作りで2ユニットからなっており、利用者が居間兼食堂として集う部屋は明るく開放的なスペースとなっている。各ユニットは利用者の要介護度や個性の違いがみられ、その人らしい暮らし方の出来る、特徴あるユニットになっている。これは日頃から、利用者の立場に立ち、家庭的な居心地のいい笑顔のある雰囲気作りに努めている管理者・職員らの努力の結果である。以上のことは管理者が、長年介護に関わってきた経験から卓越した介護感を持ち、会議の際等に職員に繰り返しグループホームの理念を伝えることにより、「一人ひとりを尊重し、入居者の立場に立ったケア」の提供に取り組んできたことに起因するものと思われる。

【重点項目への取組状況】

重点項目①	前回評価での主な改善課題とその後の取組、改善状況(関連項目:外部4)
	前回評価での改善課題は「生活暦を活かした取り組み、地域住民への積極的な働き掛け」であったが、改善の話し合いを行い、利用者が過去の経験を活かし各居室に生け花クラブで生けた季節の花を飾ったり、皆さんの集まる居間に町会からの行事ポスターを貼ったり、工夫の跡が見られる。今回の自己評価に対する取り組み状況(関連項目:外部4)
重点項目②	幹部が出席する業務会議で自己評価の意義を説明し、その会議の議事録も職員全員が見る事ができるように対応している。
	運営推進会議の主な討議内容及びそれを活かした取り組み(関連項目:外部4, 5, 6)
重点項目③	3ヶ月に1回運営推進会議を開催し、議事録も詳細に記録している。会議には地区会長・民生委員・地域包括センター職員・家族代表・利用者代表・管理者・ユニットリーダー2名が出席し、議題として地域との交流・家族会・防災訓練・行事、クラブについて活発な討議を行っている。メンバーである地区会長が防災会のリーダーも兼務しており、今後の施設への防災訓練にも協力が、期待できる。
	家族の意見、苦情、不安への対応方法・運営への反映(関連項目:外部7, 8)
重点項目④	家族からのご意見・要望が把握しにくい状況であるが、家族会では個別に面談時間を取り付け、必ず、苦情・相談・要望を聴取している。家族が訪問したときは、個々の支援経過を報告すると共に金銭管理状況も定期的に書面で報告している。さらに、2ヶ月に1回ホーム便りを出し、家族との定期的及び個々の状況に応じた連絡を密にしている。
	日常生活における地域との連携(関連項目:外部3)
	町会に加入し、地域の運動会にも利用者は見学者として参加している。又、秋祭りには地域の人々が櫓を曳いて苑まで来てくれ、その時、職員や利用者が手づくりのたこ焼き等を振舞ったり、皆さんと一緒に写真を撮ったりするなど大いに地域との交流を図っている。

2 調査結果（詳細）

外部 評価	自己 評価	項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期 待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
I. 理念に基づく運営					
1. 理念と共有					
1	1	○地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	「プライバシーを守り一人ひとりを尊重しましょう」「利用者の立場に常に身をおいて考えましょう」「家庭的な環境づくりを心がけましょう」「地域との交流を図りましょう」という分かりやすい理念を作っている。		
2	2	○理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	理念を分かりやすくして、玄関入り口に掲示している。また、月1回の業務会議や勉強会等を通じて、職員への理念の周知に努めている。		
2. 地域との支えあい					
3	5	○地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	町会に加入し、地域の運動会にも見学者として参加している。秋祭りには地域の人々が櫓を曳いて苑まで来てくれ、利用者が手づくりのたこ焼きを振舞ったり、一緒に写真を撮ったり、交流を図っている。		
3. 理念を実践するための制度の理解と活用					
4	7	○評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	幹部が出席する業務会議で自己評価の意義を説明、会議の議事録を全職員に開示できる状況になっているが、全職員で自己評価に取り組むまでは至っていない。	○	ユニットリーダーを中心に、全職員が自己評価の狙いや活用を理解できる仕組みを工夫することを期待する。

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
5	8	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	3ヶ月に1回運営推進会議を開催し、議事録を残している。会議には地区会長・民生委員・地域包括支援センター職員・家族代表・利用者代表・管理者・ユニットリーダー2名が出席し、地域との交流・家族会・防火訓練・行事、クラブなどについて活発な討議を行っている。		
6	9	○市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	地域では特別養護老人ホーム1ヶ所、グループホーム1ヶ所がある。3ヶ月に1回、町の地域ケア会議が開催され、各関係者が参加し、運営内容の意見交換を行いサービスの質の向上に取り組んでいる。		
4. 理念を実践するための体制					
7	14	○家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々に合わせた報告をしている	1ヶ月に1回家族との面会があり、個々の支援経過を伝え、生活状況を報告すると共に、金銭管理状況も書面で報告している。2ヶ月に1回ホーム便りを発行し、家族との個々の状況に合わせた連絡も密に行っている。		
8	15	○運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	家族からのご意見・要望が把握しにくい状況にあるが、家族会等では個別面談時間を設け、必ず苦情・相談・要望などを聴取している。		
9	18	○職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	職員の異動による利用者への影響を配慮して、職員の異動は1年間には行っていないが、各ユニット相互に、別ユニットへ担当職員以外の者がスポットで入り、利用者との馴染みを付けるように配慮している。		


外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
5. 人材の育成と支援					
10	19	○職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画を立て、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	認知症の理解やケアの為に研修を、ユニットリーダーが大阪府認知症高齢者グループホーム協議会の研修を受講し、認知症の理解やケアについて、その内容を職場内での勉強会で報告しているが勉強会の記録は作成していない。又、12月から医師を招聘して毎月医療の研修を計画しているが、外部・内部研修について年間計画を立てることを期待する。	○	外部・内部研修の年間計画を作成し、更に職員の研修の充実が求められる。又、勉強会の記録の作成が望まれる。一方、出勤時間の違う非常勤職員にも申し送りノートの内容を確認させる為にも、ノートに確認印の押印等の工夫が望まれる。
11	20	○同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	同業者との交流や連携の必要性を理解し、近隣に同業者が存在しないことから、大阪府認知症高齢者グループホーム協議会に加入し、サービスの質の向上に向けた取り組みをしている。		
II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応					
12	26	○馴染みながらのサービス利用 本人が安心して、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	体験見学者は今までなかったが、利用者・家族との話し合いが十分出来ているのでこれまでトラブルは見られなかった。入居後利用者に帰宅願望がみられる時には、利用者にできる役割や用事をお願いし、そのことが利用者のやりがいや楽しみに繋がり、グループホームに馴染んでもらうように働きかけている。		
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援					
13	27	○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	利用者は毎週生け花や詩吟で声を出したり、外出して食事したり、ドライブするなど職員と一緒に触れ合う事で、コミュニケーションを図り、信頼関係を築いている。		

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
1. 一人ひとりの把握					
14	33	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	入居時のフェイスシート等を活用し、生活暦を記入し、女性が好む生け花や編み物を取り入れるなど利用者の希望や意向を生活の中で生かしている。		
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し					
15	36	○チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	予め利用者・家族から話を聞き、介護計画を作成している。又、1ヶ月に1回ケアカンファレンスを開催し、利用者の情報を職員間で共有化している。	○	前もって利用者・家族からの聞き取りを行っているが、今後はケアカンファレンスへ利用者・家族の参加の呼び掛けが望まれる。
16	37	○現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	利用者の毎日の状況を担当者が支援経過に記載して把握している。月一回程度家族との面会時に事前に要望や意見を聴取し、関係者との連携やその意向、本人の変化に応じてモニタリングを実施して、介護計画の見直しを行っている。		
3. 多機能性を活かした柔軟な支援					
17	39	○事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	利用者や家族の希望に応じて、かかりつけ医への通院時の送迎や、要望に応じた外出など個別に日程を調整して対応している。		

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働					
18	43	○かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	利用者や家族の希望するかかりつけ医(泉南、泉佐野地区)での受診を支援している。他の地域には家族が付き添って通院している方もいる。受診後には家族に電話で説明を行い、納得を得ている。		
19	47	○重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	重度化や終末期のケアは本人、家族が希望すればマニュアルに沿って医師との連携を取り、看取ることも必要と認識している。今後看取りケアの研修を行う予定である。		
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
1. その人らしい暮らしの支援					
(1)一人ひとりの尊重					
20	50	○プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	プライバシー等利用者との言葉かけや、対応に心がけている。個人情報の取り扱いについては、職員には入社時誓約書の規則の遵守を、利用者とは同意書を交わしてプライバシーの保護に努めている。		
21	52	○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	アットホームなユニットを作り上げていく為に、利用者の思いや希望を大切に、2つのユニットの個性を大事にしながら、希望者は生け花や詩吟などを習い、利用者一人ひとりが自分のペースで好きなことが出来るように支援している。		

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
(2)その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援					
22	54	<p>○食事を楽しむことのできる支援</p> <p>食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている</p>	<p>食事が楽しみになるように、選択メニューの採用や月1回の外食を取り入れたり、時には急にオムライスやすき焼きを食べたいなどの利用者の希望に応えたりしている。2つのユニットで2週間ごとに材料の調節をしている。配膳、下膳、おしぼり巻きなど簡単な作業には数人の利用者が参加している。利用者はここでの食事に満足し、一番の楽しみと感じている。</p>		
23	57	<p>○入浴を楽しむことができる支援</p> <p>曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している</p>	<p>入浴の開始時間はユニットにより、午前、午後と分かれ、回数は週3回で一人ひとり職員が入浴を介助している。又、入浴嫌いの人には職員が根気よく誘い、いつでも入れるように支援している。</p>		
(3)その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援					
24	59	<p>○役割、楽しみごと、気晴らしの支援</p> <p>張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている</p>	<p>日常生活を楽しく過ごすため、利用者によって食事作りの好きな人、新聞の切り抜きの好きな人、毎日年賀状を書いている人などその方のレベルに合わせて楽しく穏やかに過ごされる支援を心がけている。</p>		
25	61	<p>○日常的な外出支援</p> <p>事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している</p>	<p>天気の良い日には、近くを散歩したり、車で30分程度離れた公園などに外出している。希望があれば、一人でも買い物の支援をしている。又家族と一緒に馴染みの美容院へ出かけたりしている。</p>		

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
(4)安心と安全を支える支援					
26	66	○鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	玄関には施錠はしていない。居室のドアに鍵はつけていない。玄関前の廊下を利用者が散歩されているが、これまで外には出て行かれたことはない。		
27	71	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	年2回の防火訓練を実施し、町の消防署とは連携をとり協力を得ている。災害、緊急マニュアルがあり、連絡網も記載されている。職員から家族や地域への連絡体制が取られている。		
(5)その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援					
28	77	○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事摂取量及び水分摂取量は排泄状況とともに、チェック表で把握している。要食事介助者や、むせのみられる利用者には個別に支援している。		
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり					
(1)居心地のよい環境づくり					
29	81	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	玄関ポーチや廊下は広くゆったりしており、2つのユニットの間に日当たりの良いオープンテラスがあり、テーブルや椅子が設置され寛げる空間となっている。居室や寛ぎのスペースには二重のカーテンを付けることで、音や光への配慮をしている。なつかしい歌がバックグランドミュージックとして流れ、利用者は居心地の良い食堂でゆったりした時を過ごしている。		
30	83	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	居室は利用者に合わせて畳の部屋や、今まで使っていたベットを使ったり、壁には家族や自分の写真が貼ってあり、又生け花クラブでの作品などが置かれている。広めのロッカーや押入れがあり衣類が整理整頓されている。居室は家族と一緒に泊まれる広さがある。		

※  は、重点項目。